自立活動だより

令和7年度 第2号
令和7年8月9日発行
佐世保特別支援学校 自立活動部

今回は、あたご部門小学部の自立活動の時間における指導と、「自閉症指導スタンダード」を軸にした取組についてご紹介します。

あたご小学部の取組

あたご小学部では、1・2年生は週に3時間、3～6年生は週に2時間、自立活動の時間における指導を設けて、日々の学習に取り組んでいます。一人一人の実態から個別に目標を立て、目標に沿った学習内容を設定して、指導を行っています。今回は、その時間を主とした児童の学習の様子についてご紹介します。

身体の動きに関する学習

いろいろな姿勢で身体を動かしたり、様々な感覚を活用しながら身体を動かしたり、教師の促しに応じて身体を動かしたりする学習をしています。

コミュニケーションに関する学習

友達と関わったり協力したりする学習や、集団の中で順番やきまりを守って友達と活動する学習をしています。

机上での学習

手元に視線を向けながら、手指を使った細かい作業を行ったり、プリントで先生とやりとりをしながら、認知機能を強化する課題を行ったりしています。

上記以外にも、日常生活動作や気持ちの安定、人間関係の形成に関する学習など一人一人に応じてたくさんの指導内容があります。一見すると、全員ブランコに乗って同じ活動をしているように見えても、A さんは揺れを感じて体の傾きを感じる学習、B さんは揺れに合わせて手足の曲げ伸ばしをする学習、C さんは「楽しい!もう1回したい!」という気持ちや要求を伝える学習など、場や教材を共有しながら、個別の目標に向けた学習に取り組んでいます。

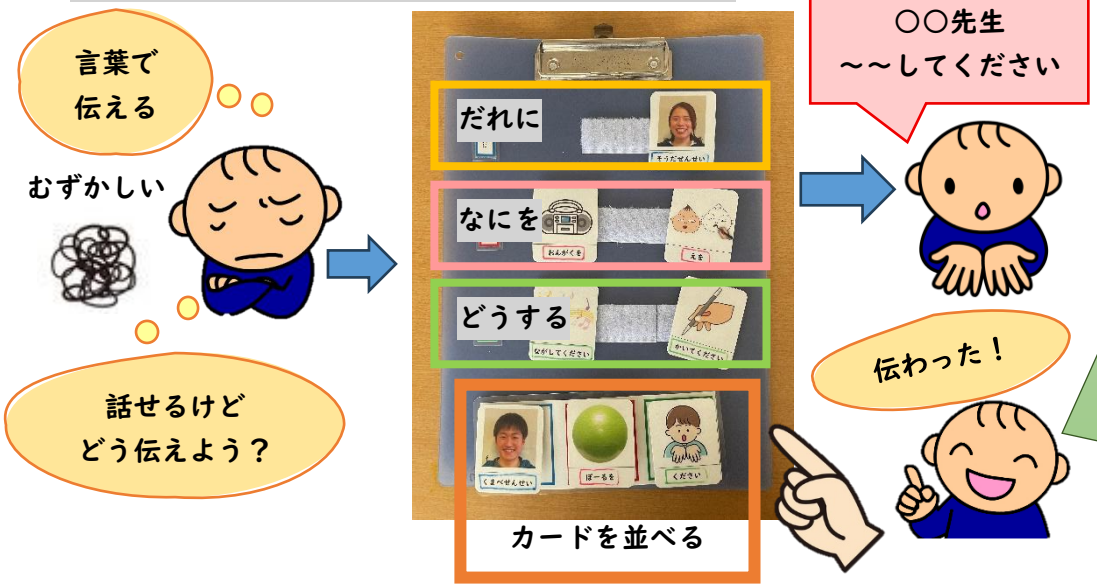
「自閉症指導スタンダード」の視点を取り入れたあたご小学部の取組

「自閉症指導スタンダード」は、本校における、自閉症のある児童生徒に関わるときに必要な共通のスタンス（学校としての自閉症のある児童生徒への指導の指標）を示したもので、全部で10項目あります。今回は、あたご部門小学部の学習場面を以下の項目の主に「2」、「4」を中心に考えていきます。

＜「自閉症指導スタンダード」項目＞

1	説明や指示は、簡単に、かつ具体的にしよう
2	コミュニケーションスキルを高めさせよう
3	予定変更は、本人が分かる方法で伝えよう
4	「いつ」「どこで」「何を」「いつまで（どれくらい）」「どのように」 「終わったら、次は何をするか」を明確に伝えよう
5	独特の感覚があることを理解しよう
6	教室の掲示などをシンプルにしよう
7	様々な場面で使えるスキルを育てよう
8	「こだわり」は、本人の「不調」「不安」のサインとしてとらえよう
9	気持ちを切り替える方法や、コントロールする力を身に付けさせよう
10	その行動が適切であったか振り返らせよう

【2 コミュニケーションスキルを高めさせよう】の実践例



＜コミュニケーションボード＞

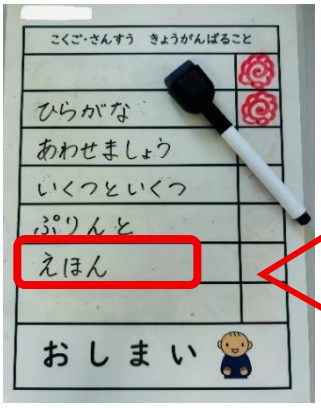
児童が、自分の気持ちを伝えられる方法を取り入れています。写真やイラスト、絵カードなど、視覚的なツールを用いて、指さしをしたり、意図に応じてカードを並べたりして自分の気持ちを伝える練習をしています。自分の思いが相手に伝わる経験を積み重ねることが大切です。

【4 「いつ」「どこで」「何を」「いつまで（どれくらい）」「どのように」「終わったら、次は何をするか」を明確に伝えよう】の実践例

＜教科学習中におけるスケジュールボードの例＞

見通しをもちながら、一定の時間落ち着いて学習に取り組めるよう、活動順を提示するボードの一例です。こちらのボードでは左側に活動を示しておき、活動が終わると評価（花丸）をもらって活動名を消すようにしています。

児童の実態によっては、活動名を文字ではなく絵カードで提示したり、一つひとつの活動を「〇分まで」など終わりを明確に示すために、右側の欄に終わりの時刻を記入したりと、様々な使い方ができます。



児童の好きな活動を入れることで、やる気を引き出せるようにしています。

他の項目においても、様々な場面で、特性に応じて、見通しをもって活動ができるように支援を工夫しています。児童生徒が、より安心して、自信をもって学習に取り組めるよう、今後も自閉症スタンダードの10項目の視点を大事にして指導を工夫していきます。